

仙台市みどりの基本計画2021-2030(中間改定) 計画の実行に向けた配慮事項(意見への対応方針)

■計画の指標に関する意見

番号	委員名	意見	対応方針
1	渡部委員	雨水流出抑制量だけではなく、雨水流出抑制策が、下流部のどの地域に効果を発揮しているかを把握できると良い。	みどりによる雨水流出抑制策の効果的な取組みを検討するとともに、流域治水に関連する取組みと連携しながら雨水流出抑制に取り組む。
2	庄子委員	「仙台ならではのみどりを活用したイベントの開催件数」の目標値が、百万都市で年間10回とするのは不十分と考える。みどりを活用した新たなイベントを開催できると良い。	現在の計画指標は継続しながら、仙台ならではのみどりを活用したイベントの拡充や、イベントの参加者数の増加に向けた取組みを検討する。
3	奥口委員	ハナミドリエのホームページアクセス数やフォロワーを中間改定計画の目標値として設定することについて検討してほしい。	ハナミドリエに関する目標値については、まずはみどりの基本計画下半期のアクションプランのなかで、個別事業の目標として設定する。

■計画に位置付けられた事業・取組みに関する意見(1/2)

番号	委員名	意見	対応方針
4	渡部委員	市内の森林で、J-クレジットの導入拡大を図っていただきたい。	海岸林における取組内容についての発信や関係団体への働きかけを行うなど、市内においてJ-クレジットの導入箇所の拡大・連携が図られるよう努める。
5	御手洗委員	生物多様性の「見える化」を図るため、地域コミュニティや学校と一緒に生物の生息マップを作成する取組みはできないだろうか。「戦略的な緑地保全」における緑地の価値の可視化を図るにあたり、生物の生息状況の把握にも寄与すると考える。	ふるさとの杜再生プロジェクトの一環として、沿岸部のヨシ原の生物調査を小学生と実施したうえで、生き物マップを作成することを検討している。
6	馬場委員	ふるさとの杜再生プロジェクトでは、植樹した樹木が成長し、下草刈りを行う段階から枝打ちなど大人の作業が必要となる段階に移行していることから、今後も子どもが自然を楽しみ、継続して活動できる取組みが必要である。	ふるさとの杜再生プロジェクトの育樹イベントとして、子どもが継続して楽しんで実作業できる取組みを検討する。



■計画に位置付けられた事業・取組みに関する意見(2/2)

番号	委員名	意見	対応方針
7	御手洗委員	自然共生サイトの認定取得促進に向けて、企業との連携やマッチングはできないだろうか。地元企業のほか、幹部に宮城出身の人がいる企業や、仙台産のものを使用している企業なども誘致できるとよい。	市民や事業者との協働によるネイチャーポジティブの実現を目的として創設され、自然共生サイトの認定申請支援等を行う「杜の都ネイチャーポジティブセンター」において、仙台に関わりのある多様な企業が会員として参画できるよう、取組を進めていく。
8	池邊委員	仙台駅に降りた際に、外国人を含めた来訪者が緑を感じられることは「Greenest City」として大きな要素となると考える。	引き続き優良建築物緑化認定制度の運用やグリーンインフラ推進助成事業により、都心部において、みどりの機能を十分に発揮させる質の高い緑化を継続して誘導する。
9	舟引会長	仙台駅は、ペDESTリアンデッキに降りてくると緑が少なく、寂しい感じがする。仙台の魅力が伝わるような「見せ方」を考慮してするとよい。	ペDESTリアンデッキ内の花壇等において、仙台市を象徴する緑化スポットを創出することを、検討してまいりたい。
10	奥口委員	遊具を改修するにあたり、景観との調和など、事業効果が多面的に発揮されるとよい。	遊具の改修にあたっては、周辺環境や、地域住民の意向等を考慮しながら、必要となる施設機能について十分検討し、事業効果が高まるよう取り組んでいく。
11	池邊委員	公園の改修にあたっては、夏の日差しによる遊具の高温化対策を図るほか、おむつ替え・授乳スペースの確保を検討してほしい。	公園の整備・再整備、施設改修にあたり、樹脂製の遊具を設置するなどの取組を継続して進める。また、子育てに関する施設の設置について、引き続き取組を進める。
12	佐藤委員	市民がみどりのイベントやプログラムを能動的に企画して取組むことを支援・促進していただきたい。	七北田公園や榴岡公園、杜の広場公園で市民団体と連携して公園活性化の取組を進めており、引き続きこれらの取組を進める。
13	佐藤委員	海外から観光や留学などで来られた方も、すぐにボランティアに参加できる仕組みを作っていただきたい。	市内のみどりのイベント情報を集約するなど、誰にでも伝わりやすい情報発信の方法について検討する。

■計画全体・その他の意見

番号	委員名	意見	対応方針
14	佐藤委員	教育や福祉、医療、防災、観光など様々な分野と連携し、グリーンインフラの機能が発揮され、市民の暮らしを豊かにするみどりとして認識されていくことで、グリーンインフラの考え方が広まると考える。	中間改定計画案において、重点的な取組みの再構成を検討するうえで、様々な視点との連携を意識した取組みとしている。これらの取組みについて、グリーンインフラの考えが広まるように意識しながら進める。
15	佐藤委員	公園管理者側でクマの対応策に関する共通認識を持って対応する必要がある。	クマの出没状況や公園でのクマ出没時の対応方針について、各公園管理者と共有を図りながら公園の管理運営に取り組む。